

令和 7 年 度

秋 田 自 動 車 道

山 内 ～ 横 手 間 水 文 調 査

特 記 仕 様 書

令和 6 年 1 2 月

東日本高速道路株式会社 東北支社  
横 手 工 事 事 務 所

## 目 次

第1章 総則.....	1
1-1 調査等概要 .....	1
1-2 適用する共通仕様書 .....	1
1-3 テクリスへの登録 .....	1
1-4 履行期間 .....	2
1-5 資料の貸与 .....	2
1-6 受注者相互の協力 .....	3
1-7 計画工程表 .....	3
1-8 調査等打合簿の作成及び提出について .....	4
1-9 三者協議会について .....	4
1-10 成果品に関する一般事項 .....	4
1-11 関連工事に関する事項 .....	4
1-12 保安に関する事項 .....	5
1-13 標識等の設置 .....	6
1-14 環境保全に関する事項 .....	6
1-15 ウィークリースタンスの取組み .....	6
第2章 業務細部に関する事項 .....	8
2-1 土質地質調査 .....	8
2-2 技術業務 .....	10
2-3 室内試験等 .....	10
2-4 技術打合せ .....	18
2-5 水文調査 交通費・日当・宿泊費 .....	18
2-6 技術業務 交通費・日当・宿泊費 .....	18
第3章 補足事項 .....	19
3-1 遠隔立会 .....	19
3-2 現地立ち入りについて .....	19
3-3 補償費について .....	19
3-4 設計図書の変更及び追加が予想される内容 .....	19

## 第1章 総則

### 1-1 調査等概要

- 1-1-1 調査等名 令和7年度 秋田自動車道 山内～横手間水文調査
- 1-1-2 道路名 秋田自動車道
- 1-1-3 履行箇所 自) 秋田県横手市山内筏 (STA. 131+8.3)  
至) 秋田県横手市大屋新町 (STA. 195+78.0)

### 1-1-4 主な履行内容

名 称	数 量	摘 要
調査業務		
流量測定 三角堰観測 (自記水位計)	24 箇所・月	
流量測定 容器法観測	107 箇所・回	
流量測定 断面法観測 (自記水位計・自記流速計)	16 箇所・月	
流量測定 断面法観測 (手計)	8 箇所・月	
流量測定 流量計観測 (自記流量計)	8 箇所・月	
水質分析試験試料採取	104 箇所・回	
水質分析試験	1072 試料	
観測工 地下水位観測 (自記水位計)	204 箇所・月	
観測工 挿入式孔内傾斜計観測	40 箇所・回	
技術業務		
実施調査計画 (A1)	6.27km	
水文総合解析	0.92k m <sup>2</sup>	
技術打合せ	1 式	

### 1-2 適用する共通仕様書

契約書第1条に規定する「調査等共通仕様書」(以下「共通仕様書」という。)は、令和6年7月版とする。

### 1-3 テクリスへの登録

本業務は、「調査等における余裕期間制度」を適用しており、共通仕様書1-12-4「テクリスへの登録」の規定によらず、以下のとおりとする。

受注者は、受注時または変更時において請負金額が100万円以上の調査等について、業務実績情報システム(以下「テクリス」という。)に基づき、受注・変更・完了・訂正時に業務実績情報として作成した「登録のための確認のお願い」をテクリスから監督員宛に電子メールを送信し、監督員の確認を受けた上で、以下の期限までに登録機関に登録申請しなければならない。ただし、登録期限には、土曜日、日曜日、国民の祝日に関する法律に定める国民の祝日(以下「休日等」という。)及び共通仕様書1-3「日数等の解釈」に規定する日数は含まない。

- (1) 受注時は、受注者が設定した業務の始期から15日以内
- (2) 登録内容の変更時は、変更があった日の翌日から15日以内
- (3) 完了時は、完了届提出日の翌日から15日以内

また、登録機関発行の「登録内容確認書」は、テクリス登録時に監督員にメール送信される。なお、変更時と完了時の間が15日間に満たない場合は、変更時の登録申請を省略できるものとする。当該業務において調査基準価格を下回る金額で落札した場合、テクリスに業務実績情報を登録する

際は、「低価格入札」にチェックした上で、「登録のための確認のお願い」を作成し、監督員の確認を受けること。

また、本業務の完了後において訂正または削除する場合についても同様に、テクリスから受注者にメールを送信し、速やかに発注者の確認を受けた上で、登録機関に登録申請しなければならない。

なお、テクリス登録に要する費用は受注者の負担とする。

#### 1-4 履行期間

本業務は、共通仕様書 1-13-1「着手日」の規定によらず、受注者の円滑な業務執行体制の確保を図るため、事前に技術者確保等の準備を行うことができる全体履行期間及び余裕期間を設定した業務であり、発注者が示した全体履行期間内（業務完了期限までの間）で、受注者が業務の始期（業務着手日）及び終期（業務完了日）を任意に設定することができる。なお、契約上の履行期間は、契約保証取得の日の翌日から受注者が設定した業務の終期までの期間とする。

余裕期間内は、管理技術者、照査技術者又は現場作業責任者を設置することを要しない。また、業務着手以外の業務のための準備を行うことができるが、現地踏査や打合せを行ってはならない。

なお、余裕期間内に行う準備は受注者の責により行うものとする。

受注者は、落札者決定から 10 日以内に、履行期間通知書（様式—1）により、業務の始期及び終期を発注者へ通知しなければならない。

余裕期間（業務着手期限）：契約保証取得の日の翌日から 60 日間（まで）

全体履行期間（業務完了期限）：契約保証取得の日の翌日から 870 日間（まで）

※全体履行期間には余裕期間を含む

#### 1-5 資料の貸与

共通仕様書 1-15-1 及び 3-2-2「資料の貸与」に基づく貸与資料は、下表のとおりとする。なお、履行期間中の調査等業務においては貸与予定日であり、変更がある場合は別途監督員より通知する。

貸与資料	調査等業務名	貸与予定日	備 考
水文調査 報告書	平成元年度 東北横断自動車道 山内～横手間水文調査	契約締結の 日より7日以内	紙成果品
〃	平成2年度 秋田自動車道 山内～横手間水文調査（その2）	〃	〃
〃	平成3年度 秋田自動車道 山内～横手間水文調査（その3）	〃	〃
〃	平成4年度 秋田自動車道 山内～横手間水文調査（その4）	〃	電子成果品
〃	平成5年度 秋田自動車道 山内～横手間水文調査（その5）	〃	〃
〃	秋田自動車道 横手地区水文調査	〃	〃
地すべり詳細調 査報告書	秋田自動車道 横手地区地すべり詳細調査	〃	〃
土質地質調査	秋田自動車道 大沢地区土質地質調査	令和7年4月	〃
水文調査 報告書	令和5年度 秋田自動車道 山内～横手間水文調査	令和7年5月	〃

※上記の日数は土曜、日曜、国民の祝日に関する法律に定める国民の祝日、12月29日から翌年1月3日まで、夏期休暇（3日）を除く。

## 1-6 受注者相互の協力

共通仕様書1-20「受注者相互の協力」に示す「隣接または関連の調査等の受注者」は下表のとおりとする。なお、下表は現時点のものであり、変更が生じた場合は監督員より通知する。

調査等業務名	履行期間	受注者	発注機関	備考
令和5年度 秋田自動車道 山内～横手間水文調査	令和5年4月4日 ～ 令和7年6月21日	応用地質(株)	東日本高速道路(株)	既往調査の引継ぎ 設計資料の共有 成果品の使用

## 1-7 計画工程表

### 1-7-1 計画工程表の記載事項

共通仕様書1-14-1「作業計画書の提出」（2）に示す作業計画書中の計画工程表（本特記仕様書様式-2）の作成にあたっては、下記の項目ごとに作業完了時期を明示し提出するものとする。ただし、記載する項目は監督員と受注者との協議の上変更することができるものとする。

計画工程表は本特記仕様書1-5「資料の貸与」に示す資料の貸与時期及び共通仕様書1-22「打合せ」に規定する打合せの実施時期についても十分検討の上作成するものとし、これらの事項は計画工程表に記載するものとする。

設計種別	項目	単位	備考
土質地質調査	流量測定 三角堰観測（自記水位計）	箇所・月	
	流量測定 容器法観測	箇所・回	
	流量測定 断面法観測（自記水位計・自記流速計）	箇所・月	
	流量測定 断面法観測（手計）	箇所・月	
	流量測定 流量計観測（自記流量計）	箇所・月	
	水質分析試験試料採取	箇所・回	
	水質分析試験	試料	
	観測工 地下水位観測（自記水位計）	箇所・月	
	観測工 挿入式孔内傾斜計観測	箇所・回	
	実施調査計画（A1）	k m	
	水文総合解析	k m <sup>2</sup>	
	技術打合せ	式	
	調査報告書の作成	式	

### 1-7-2 計画工程表に基づく作業状況の報告

受注者は共通仕様書1-22「打合せ」に規定する打合せの実施時に、作業の実施状況を計画工程表に記載した上で監督員に報告をするとともに、共通仕様書様式第1-4号「調査等打合簿」に添付するものとする。

なお、受注者は前項で規定した完了時期が著しく変更となる場合は、共通仕様書1-14-3「変更作業計画書」に基づき変更計画工程表を監督員に提出するものとする。また、その結果調査等内容の変更が生じる場合の取扱いを受注者と監督員との協議の上決定するものとする。

### 1-8 調査等打合簿の作成及び提出について

受注者による共通仕様書 1-2-2 「打合せ」に規定する調査等打合簿の監督員への提出は、打合せ後 7 日以内（休日等を除く）に監督員に提出するものとする。

また、監督員は受注者より提出のあった調査等打合簿を受領後 7 日以内（休日等除く）に受注者へ返送するものとする。

### 1-9 三者協議会について

本業務の成果による発注工事（以下「予定工事」という。）において発注者及び受注者並びに予定工事の受注者が協同して、設計の理念及び意図に関わる理解を深め、適切な工事目的物の完成に資するよう技術情報の確認及び交換を行うことを目的として「予定工事の品質確保を推進する設計施工協同連絡会議」（以下「三者協議会」という。）を開催する場合がある。

三者協議会の実施は、本調査等業務の受渡し後に別途発注者及び受注者並びに予定工事の受注者として協定を結ぶものとする。受注者の三者協議会の参加に要する費用については、協定書によるものとする。

なお、本条項の記載により受注者の三者協議会への参加を義務付けるものではない。

### 1-10 成果品に関する一般事項

共通仕様書 1-4-6-1 「成果品」よらず下記の通りとする。

- (1) 受注者は、業務完了届提出の概ね 30 日前までに、成果品をとりまとめた上で調査等打合せ簿にて監督員へ報告するものとする。
- (2) 成果品は、設計図書及び監督員の指示に従って作成し、提出しなければならない。
- (3) 報告書等の成果品の作成にあたっては、各章各節によるほか、将来の安全や維持管理の観点から、道路の計画・設計・施工・維持管理など（当該調査等以降に実施される業務）に配慮すべき事項について整理し、とりまとめるものとする。なお、これに要する費用については、関連項目に含むものとする。
- (4) 報告書の表紙は黒色、金文字製本とする。
- (5) 本特記仕様書 2-1-1 「水文調査」成果品については次のとおりとする。なお、提出部数は共通仕様書 1-4-6-5 のとおりとする。
  - ① 調査報告書
  - ② 各種測定 計測記録  
イ) 水文総合解析
  - ③ 水質分析試験 データシート

### 1-11 関連工事に関する事項

- (1) 発注者は受注者の調査等の実施及び発注者の発注に係る第三者の施工する他の工事が施工上密接に関連する場合において、必要があるときは、その調査等実施につき、調整を行うものとする。この場合においては、受注者は、発注者の調整に従い、当該第三者の行う工事の円滑な施工に協力しなければならない。
- (2) 発注者は受注者の調査等の実施及び設計図書に示した他の機関の発注に係る他の工事が施工上密接に関連する場合において、必要があるときは、その施工につき、当該他の機関と調整を行うものとする。この場合においては、受注者は、発注者の調整に従い、工事の円滑な施工に協力しなければならない。

(3) 前項に規定する当社または他の機関の発注に係る第三者が施工する他の工事は下表のとおりとする。

工事名	主な関連事項	予定工期	施行主体	受注者等名
保全工事等の実施に関する年度協定 道路保全工事業務	道路保全工事	2024年4月1日 ～2025年3月31日 (年度更新)	当社 (※)	(株)ネスコ・メンテナンス 東北
保全点検業務等の実施に関する年度協定 施設保全工事・管理業務	施設保全工事	2024年4月1日 ～2025年3月31日 (年度更新)	当社 (※)	(株)ネスコ・エンジニアリング 東北
保全点検業務等の実施に関する年度協定 通信施設保全管理業務	通信施設 保全管理	2024年4月1日 ～2025年3月31日 (年度更新)	当社 (※)	(株)ネスコ東日本エンジニアリング
秋田自動車道 土洩工事	調査範囲の重複	2024年4月26日 ～2029年3月30日	当社	(株)安藤・間
秋田自動車道 横手工事	調査範囲の重複	未定	当社	未定
秋田自動車道 横手川橋(PC上部工)工事	調査範囲の重複	未定	当社	未定
秋田自動車道 岩瀬橋(鋼上部工)工事	調査範囲の重複	未定	当社	未定

※東北支社秋田管理事務所が管理・監督する業務

なお、上記に示す工事は現時点での予定であり、追加及び変更が生じる場合は別途監督員から指示するものとする。

## 1-1-2 保安に関する事項

交通安全に関する事項については、共通仕様書1-37-2「交通安全」によるものとし、以下の内容を追加する。

### 1-1-2-1 調査用車両の運行速度

一般道の人家連担区域等や高速道路上における運行速度は、法定速度若しくは規制速度厳守するとともに、過積載の防止等法令を遵守するものとする。

### 1-1-2-2 調査用車両の区別

受注者は調査に使用する車両と一般車両の区別をするため、以下に示す調査用車両の標示と同等以上の標示板を設置するものとする。なお、標示内容の変更を監督員が指示した場合、受注者はその指示に従わなければならないものとする。

また、高速道路の交通規制内へ出入りする全ての車両は、一般車両と識別できるよう黄色回転灯を備えたものとする。

#### 調査用車両標示板参考図

令和 7 年度 秋田自動車道  
山内～横手間水文調査  
調査用車両  
受注者名 (□□)

材質：耐水合板、強化プラスチック、  
布製又はラミネート加工した印刷物等

色彩：黄色地に黒文字

寸法：前部標示板

乗用車等：A 4 サイズ

トラック、ダンプ等：A 3 サイズ

後部標示板

トラック、ダンプ等：30cm×90cm

その他の全車両：A 3 サイズ

字体：丸ゴシック体（受注者名の文字の大きさは、  
他の文字より大きめにする）

□□：受注者車両の通し番号

### 1-1-3 標識等の設置

共通仕様書 1-3-7-1 「安全対策」に規定する安全対策を実施するにあたっては、必要とする箇所及び期間において、調査標示板、標識等の交通安全施設を設置するものとする。

### 1-1-4 環境保全に関する事項

#### 1-1-4-1 砂塵等の防止

受注者は、調査用機械及び車両の走行による砂塵等の被害を第三者に及ぼさないよう善良な管理を行うものとする。

#### 1-1-4-2 騒音等に関する配慮

受注者は、調査等業務に伴う調査用機械及び車両の騒音対策について、近隣の地域住民へ十分な配慮を講じて施工を行わなければならない。

#### 1-1-4-3 環境保全に関する費用

本特記仕様書 1-1-4 「環境保全に関する事項」に関する費用は諸経費に含むものとし、別途支払は行わないものとする。

### 1-1-5 ウィークリースタンスの取組み

ウィークリースタンスの取組みとは、受注者間における仕事の進め方として、一週間における受発注者間相互のルールや約束事、スタンスを目標として定め、計画的に業務を履行することにより、業務環境等を改善し、より一層魅力ある仕事、職場の創造に努めることを目的とした取組みであり、本業務において積極的に取組むこととする。

取組内容は下記事項を標準として、契約締結後の打合せにおいて監督員を受注者とで協議の上実施する取組み事項を定め、調査等打合簿を作成し相互に確認するものとする。

あらかじめ定めた取組み事項を実施できない事業が生じた場合の取扱いについては、その都度監督員と受注者と協議の上定めるものとする。

#### 【取組み事項】

- ① 月曜日を依頼の期限日としない（マデー・ノーピリット）
- ② 水曜日は定時の帰宅に心掛ける（ウェンズデー・ホーム）
- ③ 土・日曜に休暇が取れるように金曜日には依頼しない（フライデー・ノーリクエスト）



- ④ 昼休みや午後 5 時以降からの打合せをしない（ランチタイム・オーバーファイブ・ノーミーティング）
- ⑤ 定時間際、定時後の依頼、打合せをしない（イブニング・ノーリクエスト）
- ⑥ 金曜日にも定時の帰宅に心掛ける

## 第2章 業務細部に関する事項

### 2-1 土質地質調査

#### 2-1-1 水文調査

##### (1) 調査・解析の内容

水文調査の調査・解析の内容は次のとおりとする。

内約書の項目	内容	適用規格	調査地点
流量測定 三角堰観測 (自記水位計)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・流量測定 三角堰観測（自記水位計）とは、既往業務において設置している三角堰及び自記水位計を用いて、調査箇所の流量観測を行うことをいう。観測実施時にデータ回収・機器等のメンテナンスを行う。（積雪期の1～3月を除く）</li> <li>・調査期間は令和7年5月～令和8年11月のうち、5、7、9、11月に行う。</li> <li>・検測数量は箇所・月とし、観測に要するすべての費用を含むものとする。</li> </ul>	JIS B 8302	S-6
			S-14
			S-20
流量測定 容器法観測	<ul style="list-style-type: none"> <li>・流量測定 容器法観測とは、容器法により調査箇所の流量観測を行うことをいう。（積雪期の1～3月を除く）</li> <li>・調査期間は、S-○：令和7年5月～令和8年11月、集水井：令和7年6月～令和9年4月とする。</li> <li>・検測数量は箇所・回とし、観測に要するすべての費用を含むものとする。</li> </ul>	JIS B 8302	S-8
			S-10
			S-11
			S-15
			S-16
			S-18
			S-19
			2号集水井
流量測定 断面法観測 (自記水位計・自記流速計)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・流量測定 断面法観測（自記水位計・自記流速計）とは、既往業務において設置している自記水位計及び自記流速計を用いて、断面法により調査箇所の流量観測を行うことをいう。観測実施時にデータ回収・機器等のメンテナンスを行う。（積雪期の1～3月を除く）</li> <li>・調査期間は令和7年5月～令和8年11月のうち、5、7、9、11月に行う。</li> <li>・検測数量は箇所・月とし、観測に要するすべての費用を含むものとする。</li> </ul>	JIS B 7557	S-9
			S-12
流量測定 断面法観測（手計）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・流量測定 断面法観測（手計）とは、電磁流速計を使用し、断面法により調査箇所の流量観測を行うことを言う。（積雪期の1～3月を除く）</li> <li>・調査期間は令和7年5月～令和8年11月のうち、5、7、9、11月に行う。</li> <li>・検測数量は箇所・月とし、観測に要するすべての費用を含むものとする。</li> </ul>	JIS B 7557	S-17

流量測定 流量計観測 (自記流量計)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・流量測定 流量計観測（自記流量計）とは、既往業務において設置している自記流量計を用いて、調査箇所の流量観測を行うことをいう。観測実施時にデータ回収・機器等のメンテナンスを行う。（積雪期の1～3月を除く）</li> <li>・調査期間は令和7年5月～令和8年11月のうち、5、7、9、11月に行う。</li> <li>・検測数量は箇所・月とし、観測に要するすべての費用を含むものとする。</li> </ul>	JIS B 8302	S-13
--------------------------	---	------------	------

## 2-1-2 観測工

### (1) 定義

観測工とは、当地すべり地域における地山状況の現状把握をするための観測を行うものである。

### (2) 観測種別

観測工の種別は下記のとおりとする。

内約書の項目	内容	適用規格	調査地点
観測工 地下 水位観測 (自記水位 計)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観測工 地下水位観測（自記水位計）とは、既設ボーリング孔内に設置している自記水位計を用いて、調査箇所の地下水位観測を行うことをいう。自記水位計のデータについては、専用のロガーを用いて回収する。データ回収に使用するロガーについては、発注者から貸与するものを使用する。</li> <li>・調査期間は令和7年6月～令和9年4月とする。（積雪期の1～3月を除く）</li> <li>・検測数量は箇所・月とし、観測に要するすべての費用を含むものとする。</li> </ul>	共通仕様書 3-6「孔内 試験」	R03-01-01
			R03-01-02
			R03-01-03
			R03-01-04
			R03-01-05
			BV-1
			BV-2
			BV-4
			BV-7
			BV-8
			BS1-4
			BS1-5
観測工 挿入 式孔内傾斜計 観測	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観測工 挿入式孔内傾斜計観測とは、既設観測孔内のケーシングパイプに設置している孔内傾斜計を用いて観測を行うことをいう。</li> <li>・調査期間は令和7年6月～令和9年4月のうち、4、6、9、11月に行う。</li> <li>・検測数量は箇所・回とし、観測に要するすべての費用を含むものとする。</li> </ul>	JGS 3722- 2012	R03-01-01
			R03-01-02
			R03-01-03
			R03-01-04
			R03-01-05

## 2-2 技術業務

### 2-2-1 調査計画

共通仕様書 3-4-2 「調査計画」(1) 実施調査計画に下記を追加する。

実施調査計画 (A1) とは、水文調査において、契約締結後に受注者が、現地を確認し、過去業務（令和5年度 秋田自動車道山内～横手間水文調査）での既往の実施調査計画や調査結果などを踏まえ、本業務における実施調査計画案を企画し、その案に基づいて監督員と協議のうえ、本業務の実施調査計画を策定することをいう。

なお、実施調査計画案は、調査目的、調査位置、調査方法及び数量等を詳細に記載する。

実施調査計画 (A1) の検測数量は、調査区間の道路延長 (km) とし、調査範囲は下表のとおりとする。

内訳書の項目	適用箇所	備考
実施調査計画 (A1)	STA. 131+08～STA. 178+25	本線
	STA. 191+66～STA. 195+78	本線
	No. 0～No. 11+40	前郷地区本線外盛土場
総延長	6. 27 km	

### 2-2-2 水文総合解析

水文総合解析の調査範囲は次のとおりとする。

調査地点	範囲 (k m <sup>2</sup> )
S-6	0.06
S-8	0.03
S-10	0.04
S-11	0.12
S-13～S-14	0.10
S-15	0.12
S-16	0.08
S-17	0.15
S-18	0.04
S-19	0.09
S-20	0.09
計	0.92

## 2-3 室内試験等

### 2-3-1 水質分析試験

水質分析試験の試験項目及び試験方法等は次のとおりとする。

試験項目	試験方法	適用基準類	調査地点
一般細菌	平成15年厚労省告示第261号	飲用水基準（横手市）※1	S-13
			S-14
		飲用井戸※2	S-24
大腸菌	平成15年厚労省告示第261号	飲用水基準（横手市）※1	S-13
			S-14
		飲用井戸※2 雑用水※4	S-24
水素イオン濃度 (pH)	平成15年厚労	飲用水基準（横手市）※1	S-13

	省告示第 261 号		S-14
	JIS K 0102 12.1	飲用井戸 <sup>※2</sup> 農業用水 <sup>※3</sup> 雑用水 <sup>※4</sup> 河川水 <sup>※5</sup> 重金属 <sup>※6</sup>	S-1
			S-2
			S-3
			S-4
			S-5
			S-6
			S-7
			S-9
			S-12
			S-20
			S-21
			S-22
			S-23
			S-24
		重金属関連（モニタリング） <sup>※7</sup>	R05-01-08
			R05-01-10
			R05-01-11
			R05-01-12
臭気	平成 15 年厚労 省告示第 261 号	飲用水基準（横手市） <sup>※1</sup>	S-13
			S-14
		飲用井戸 <sup>※2</sup> 雑用水 <sup>※4</sup>	S-24
色度	平成 15 年厚労 省告示第 261 号	飲用水基準（横手市） <sup>※1</sup>	S-13
			S-14
		飲用井戸 <sup>※2</sup> 雑用水 <sup>※4</sup>	S-24
濁度	平成 15 年厚労 省告示第 261 号	飲用水基準（横手市） <sup>※1</sup>	S-13
			S-14
		飲用井戸 <sup>※2</sup> 雑用水 <sup>※4</sup>	S-24
亜鉛およびその化合物	平成 15 年厚労 省告示第 261 号	飲用水基準（横手市） <sup>※1</sup>	S-13
			S-14
	JIS K 0102 53.3	農業用水 <sup>※3</sup> 河川水 <sup>※5</sup>	S-1
			S-2
			S-3
			S-4
			S-5
			S-6
			S-7

			S-12
			S-20
			S-21
			S-22
			S-23
銅およびその化合物	平成 15 年厚労 省告示第 261 号	飲用水基準（横手市）※ <sup>1</sup>	S-13
			S-14
	JIS K 0102 52.4	農業用水※ <sup>3</sup>	S-1
			S-2
			S-4
			S-6
			S-7
			S-20
			S-21
			S-23
亜硝酸態窒素	平成 15 年厚労 省告示第 261 号	飲用水基準（横手市）※ <sup>1</sup>	S-13
			S-14
		飲用井戸※ <sup>2</sup>	S-24
硝酸態窒素および亜硝酸態 窒素	平成 15 年厚労 省告示第 261 号	飲用水基準（横手市）※ <sup>1</sup>	S-13
			S-14
		飲用井戸※ <sup>2</sup>	S-24
塩化物イオン	平成 15 年厚労 省告示第 261 号	飲用水基準（横手市）※ <sup>1</sup>	S-13
			S-14
		飲用井戸※ <sup>2</sup>	S-24
有機物(全有機炭素 (TOC) の量)	平成 15 年厚労 省告示第 261 号	飲用水基準（横手市）※ <sup>1</sup>	S-13
			S-14
		飲用井戸※ <sup>2</sup>	S-24
トリクロロエチレン	平成 15 年厚労 省告示第 261 号	飲用水基準（横手市）※ <sup>1</sup>	S-13
			S-14
		飲用井戸※ <sup>2</sup>	S-24
テトラクロロエチレン	平成 15 年厚労 省告示第 261 号	飲用水基準（横手市）※ <sup>1</sup>	S-13
			S-14
		飲用井戸※ <sup>2</sup>	S-24
カドミウムおよびその化合 物	平成 15 年厚労 省告示第 261 号	飲用水基準（横手市）※ <sup>1</sup>	S-13
			S-14
	平成 15 年厚労 省告示第 17 号	重金属※ <sup>6</sup>	S-4
			S-7
			S-9
			S-12

			S-22
		重金属関連（モニタリング）※7	R05-01-08
			R05-01-10
			R05-01-11
			R05-01-12
鉛およびその化合物	平成 15 年厚労省告示第 261 号	飲用水基準（横手市）※1	S-13
			S-14
	平成 15 年厚労省告示第 17 号	重金属※6	S-4
			S-7
			S-9
			S-12
			S-22
		重金属関連（モニタリング）※7	R05-01-08
			R05-01-10
			R05-01-11
			R05-01-12
六価クロム化合物	平成 15 年厚労省告示第 261 号	飲用水基準（横手市）※1	S-13
			S-14
	平成 15 年厚労省告示第 17 号	重金属※6	S-4
			S-7
			S-9
			S-12
			S-22
		重金属関連（モニタリング）※7	R05-01-08
			R05-01-10
			R05-01-11
			R05-01-12
ヒ素およびその化合物	平成 15 年厚労省告示第 261 号	飲用水基準（横手市）※1	S-13
			S-14
	JIS K 0102 61.2	農業用水※3	S-1
			S-2
			S-4
			S-6
			S-7
			S-20
			S-21
			S-23
	平成 15 年厚労省告示第 17 号	重金属※6	S-4
			S-7
			S-9
			S-12

			S-22
		重金属関連（モニタリング）※7	R05-01-08
			R05-01-10
			R05-01-11
			R05-01-12
水銀およびその化合物	平成 15 年厚労省告示第 261 号	飲用水基準（横手市）※1	S-13
			S-14
	平成 15 年厚労省告示第 17 号	重金属※6	S-4
			S-7
			S-9
			S-12
			S-22
		重金属関連（モニタリング）※7	R05-01-08
			R05-01-10
			R05-01-11
			R05-01-12
セレンおよびその化合物	平成 15 年厚労省告示第 261 号	飲用水基準（横手市）※1	S-13
			S-14
	平成 15 年厚労省告示第 17 号	重金属※6	S-4
			S-7
			S-9
			S-12
			S-22
		重金属関連（モニタリング）※7	R05-01-08
			R05-01-10
			R05-01-11
			R05-01-12
フッ素およびその化合物	平成 15 年厚労省告示第 261 号	飲用水基準（横手市）※1	S-13
			S-14
	平成 15 年厚労省告示第 17 号	重金属※6	S-4
			S-7
			S-9
			S-12
			S-22
		重金属関連（モニタリング）※7	R05-01-08
			R05-01-10
			R05-01-11
			R05-01-12
ホウ素およびその化合物	平成 15 年厚労省告示第 261 号	飲用水基準（横手市）※1	S-13
			S-14
	平成 15 年厚労省告示第 17 号	重金属※6	S-4
			S-7
			S-9



		重金属関連（モニタリング）※7	S-9
			S-12
			S-22
			R05-01-08
			R05-01-10
			R05-01-11
			R05-01-12
シアン化物イオンおよび塩化シアン	平成 15 年厚労省告示第 261 号	飲用水基準（横手市）※1	S-13
			S-14
四塩化炭素	平成 15 年厚労省告示第 261 号	飲用水基準（横手市）※1	S-13
			S-14
1,4-ジオキサン	平成 15 年厚労省告示第 261 号	飲用水基準（横手市）※1	S-13
			S-14
シス-1,2-ジクロロエチレン	平成 15 年厚労省告示第 261 号	飲用水基準（横手市）※1	S-13
			S-14
トランス-1,2-ジクロロエチレン	平成 15 年厚労省告示第 261 号	飲用水基準（横手市）※1	S-13
			S-14
ジクロロメタン	平成 15 年厚労省告示第 261 号	飲用水基準（横手市）※1	S-13
			S-14
ベンゼン	平成 15 年厚労省告示第 261 号	飲用水基準（横手市）※1	S-13
			S-14
アルミニウムおよびその化合物	平成 15 年厚労省告示第 261 号	飲用水基準（横手市）※1	S-13
			S-14
鉄およびその化合物	平成 15 年厚労省告示第 261 号	飲用水基準（横手市）※1	S-13
			S-14
ナトリウムおよびその化合物	平成 15 年厚労省告示第 261 号	飲用水基準（横手市）※1	S-13
			S-14
マンガンおよびその化合物	平成 15 年厚労省告示第 261 号	飲用水基準（横手市）※1	S-13
			S-14
硬度（カルシウム・マグネシウム等）	平成 15 年厚労省告示第 261 号	飲用水基準（横手市）※1	S-13
			S-14
蒸発残留物	平成 15 年厚労省告示第 261 号	飲用水基準（横手市）※1	S-13
			S-14
陰イオン界面活性剤	平成 15 年厚労省告示第 261 号	飲用水基準（横手市）※1	S-13
			S-14
ジェオスミン	平成 15 年厚労省告示第 261 号	飲用水基準（横手市）※1	S-13
			S-14
2-メチルイソボルネオール	平成 15 年厚労省告示第 261 号	飲用水基準（横手市）※1	S-13
			S-14
非イオン界面活性剤	平成 15 年厚労	飲用水基準（横手市）※1	S-13

	省告示第 261 号		S-14
フェノール類	平成 15 年厚労 省告示第 261 号	飲用水基準（横手市）※1	S-13
			S-14
生物化学的酸素要求量 (BOD)	JIS K 0102 21	雑用水※4 河川水※5	S-1
			S-2
			S-3
			S-5
			S-12
			S-20
			S-22
			S-24
電気伝導度	JIS K 0102 13	農業用水※3 雑用水※4 河川水※5	S-1
			S-2
			S-3
			S-4
			S-5
			S-6
			S-7
			S-12
			S-20
			S-21
			S-22
			S-23
化学的酸素要求量（COD）	JIS K 0102 17	農業用水※3	S-1
			S-2
			S-4
			S-6
			S-7
			S-20
			S-21
			S-23
浮遊物質量（SS）	S46 環境庁告示 第 59 号	農業用水※3 河川水※5	S-1
			S-2
			S-3
			S-4
			S-5
			S-6
			S-7
			S-12

			S-20
			S-21
			S-22
			S-23
溶存酸素量 (DO)	JIS K 0102 32.1	農業用水 <sup>※3</sup> 河川水 <sup>※5</sup>	S-1
			S-2
			S-3
			S-4
			S-5
			S-6
			S-7
			S-12
			S-20
			S-21
			S-22
			S-23
総窒素 (総和法)	JIS K 0102 45.4	農業用水 <sup>※3</sup>	S-1
			S-2
			S-4
			S-6
			S-7
			S-20
			S-21
			S-23
大腸菌数	平成 15 年厚労 省告示第 261 号	河川水 <sup>※5</sup>	S-1
			S-2
			S-3
			S-5
			S-12
			S-20
			S-22
ノニルフェノール	S46 環境庁告示 第 59 号	河川水 <sup>※5</sup>	S-1
			S-2
			S-3
			S-5
			S-12
			S-20
			S-22
直鎖アルキルベンゼンスル ホン酸及びその塩	S46 環境庁告示 第 59 号	河川水 <sup>※5</sup>	S-1
			S-2

			S-3
			S-5
			S-12
			S-20
			S-22

上記表の適用基準類については、以下のとおりである。

※1 飲用水基準（横手市）：令和6年度秋田市水質検査計画

※2 飲用井戸：秋田県飲用井戸等衛生対策要領（制定：昭和62年4月1日）（改正含む）

※3 農業用水：農業（水稻）用水基準（制定：昭和45年 農林省公害研究会）

※4 雑用水：建築物環境衛生管理基準（建築物における衛生的環境の確保に関する法律施行令）（制定：昭和45年政令第304号）（改正含む）

※5 河川水：生活環境の保全に関する環境基準（河川）（水質汚濁に係る環境基準）（制定：昭和46年12月28日環境庁告示第59号）（改正含む）

※6 重金属：地下水の汚染に係る環境基準（制定：平成9年3月13日環境庁告示第10号）（改正含む）

※7 重金属関連（モニタリング）：建設工事における自然由来重金属等含有岩石・土壌への対応マニュアル（2023年版）

## 2-3-2 水質分析試験試料採取

水質分析試験の資料採取区分は「既設井戸・河川」とし、検測単位は「箇所・回」とする。

## 2-4 技術打合せ

本業務における打合せの回数は業務内容確認検査を含め、7回とする。打合せの検測数量は1式とし、履行状況により打合せ回数が増減しても打合せ費用の変更は行わないものとする。ただし、監督員が打合せ回数の追加を指示した場合や業務の追加、変更に伴い打合せを追加する必要がある場合の取扱いには監督員と受注者との協議の上決定するものとする。

打合せ場所は、東日本高速道路株式会社横手工事事務所で行うものとする。ただし、打合せ場所の変更を監督員が指示した場合は、受注者はこれに従わなければならない。

打合せ項目	回数（回）	備考
当初	1	
中間	5	業務内容確認検査を含む
最終	1	完了検査
計	7	

## 2-5 水文調査 交通費・日当・宿泊費

水文調査 交通費・日当・宿泊費とは、水文調査及び観測工に必要な現場作業の交通費・宿泊費・日当に要する費用のことをいう。設計項目箇所が増減した場合は、交通費・日当・宿泊費の費用も変更を行うものとする。

## 2-6 技術業務 交通費・日当・宿泊費

技術業務 交通費・日当・宿泊費とは技術業務（実施調査計画の現地踏査を含む）に必要な交通費・日当・宿泊費に要する費用のことをいう。設計項目箇所が増減した場合は、交通費・日当・宿泊

費も変更を行うものとする。また、ウェブ会議システム等を活用して打合せを実施する場合の交通費・日当・宿泊費についての取扱いは監督員と受注者との協議の上決定するものとする。

### 第3章 補足事項

#### 3-1 遠隔立会

遠隔立会とは、遠隔立会実施要領（令和5年10月 東日本高速道路株式会社）に基づき、共通仕様書「1-2-3 立会い及び検査」に定める検査及び立会いについて、デジタル通信技術を活用し遠隔地からの確認、検査及び立会いの実施により、受注者及び発注者の調査等管理業務の効率化による生産性向上を図るものである。

遠隔立会の実施有無、実施項目、費用等については、調査着手前に監督員と協議し定めるものとする。

#### 3-2 現地立ち入りについて

現地立入の際は、事前に当社と十分な打合せを行わなければならない。なお、高速道路敷の立木等の伐採はできる限り行わないよう配慮し、伐採が必要な場合は、事前に当社に連絡し、その指示に従うものとする。

#### 3-3 補償費について

調査実施に伴う踏み荒し補償費等に伴う立会謝金を土地所有者に支払う事態が発生した場合は、これらに要する費用については別途監督員と協議するものとする。

#### 3-4 設計図書の変更及び追加が予想される内容

下記に示す事項については、現地状況等により変更または追加する可能性があるため、受注者は監督員と緊密な連絡を取るとともに、これについて監督員の指示があった場合は速やかにその指示に従うものとする。また、これに要する費用については、監督員と別途協議するものとする。

- （1） 関係機関との協議の結果および現地状況等に基づき、業務内容の変更及び追加を行う場合がある。
- （2） 地元設計協議の結果に基づき、業務内容の変更及び追加を行う場合がある。
- （3） 本特記仕様書1-1-1「関連工事に関する事項」に示す工事の施工状況により、業務内容の変更及び追加を行う場合がある。

様式－1

令和 年 月 日

東日本高速道路株式会社 東北支社  
支社長 殿

住所  
会社名  
代表者

履行期間通知書

調査等名 令和7年度 秋田自動車道 山内～横手間水文調査

標記について、発注者が示した全体履行期間内において業務の始期と終期を設定しましたので、通知します。

記

1. 契約保証取得の日

令和 年 月 日

2-1. 発注者が設定した全体履行期間

令和 年 月 日 ～ 令和 年 月 日 ( 日間)

(1. 契約保証取得の日の翌日)

2-2. 発注者が設定した余裕期間

令和 年 月 日 ～ 令和 年 月 日 ( 日間)

(1. 契約保証取得の日の翌日)

3-1. 受注者が設定した業務の始期

令和 年 月 日

3-2. 受注者が設定した業務の終期

令和 年 月 日

3-3. 契約上の履行期間

令和 年 月 日 ～ 令和 年 月 日 ( 日間)

(1. 契約保証取得の日の翌日) (3-2. 受注者が設定した業務の終期)

1土質調査業務	(全体履行期間)	令和	年	月	日	～	令和	年	月	日	(日間)
	(実施履行期間)	令和	年	月	日	～	令和	年	月	日	(日間)

[illegible]

2 貸与資料

[illegible]

### 3 関連業務

[illegible]

#### 4 關係維護與協調

[illegible]

5 その他懸念事項

[illegible]

## 6 協議内容、結果等

協議内容経緯等	○月○日 ①協議場所、出席者	○月○日 ①協議場所、出席者	○月○日 ①協議場所、出席者	○月○日 ①協議場所、出席者	○月○日 ①協議場所、出席者	※作成上のポイント（記述内容は作成例であるため、非任意性並び及び特記仕修書の記載を確認の上作成すること） ①適切な工程管理（履行期間の確保）を明記・全目的とする。 ②提示する商業条件や設計・業務内容に関係機関協議による資料入手や条件提示等の遅れは履行期間を圧迫することがないよう、資料入手・条件提示・対外協議の期限を明確化する。 ③協議時期と内容（結果）を工程表に明示することにより、打合せ時期・内容に工程上の遅れがないよう確認する。 ④無意の時間・内容（結果）を工程表に明示することにより、作業の進捗状況に合わせた作業計画が実施されていることを確認する。 ⑤本工程表は作業計画書に添付するとともに、発注者と受注者双方で共有し、適切な履行期間を確保することで設計上の停止、品質の確保を図る。 ⑥なお、本書式は固定のものではない。上記機曾を理解したうえで、各業務単位で工夫・改良を加えて利用することを基本とする。
	②協議結果	②協議結果	②協議結果	②協議結果	②協議結果	※作成時の留意事項 ①関係機関協議については該当事項をその都度記入のこと ②協議時上による遅延の場合工程上のクリアールを明示すること。 ③工程計画に大幅な変更が生じた場合、協議時に発注者に提示し、確認を行うこと。

※作成時の留意事項

- ① 関係機関協議については該当事項をその都度記入のこと
- ② 協議待ちによる遅延の場合工程上のリザルを明示すること。
- ③ 工程計画に大幅な変更が生じた場合、協議時に発注者に提示し確認を行うこと。